

「瑞川寺」年表

西暦 年 号

三九一 古墳時代 日本軍朝鮮に出兵し、百濟新羅高句麗と

戦う

四〇〇頃 古墳時代

青塚古墳（熊野塚）成る。郷土史家故佐々木忠雄氏は成務朝の思国造志久麻彦命即ち神功朝の千熊長彦命の墓に比定す。

（百濟記の職那那加此跪）この人、古代

日韓交渉の名将なり。

五三八 古墳時代

仏教伝来。百濟の聖明王仏像、経論等を献上す。

五九三 推古朝

聖徳太子摂政となる。

六四五 大化元年

大化の改新。

六六五 天智二年

白村江の戦に日本軍敗れ、百濟滅ぶ。

七九七 延暦十六年

坂上田村麿を征夷大將軍に任ず。

八六四 貞観六年

慈覚大師円仁没す。東北天台宗の祖。

九四〇 天慶三年

六月十四日稲葉祇園社立つ、願主藤原秀郷、

神人三神安季志田郡の鎮守。

一〇一七 寛仁元年

（恵心僧都）源信没す。往生要集の作者なり。

瑞川寺本尊釈迦牟尼像の作者と伝う、あるいはこのころ天台宗「川流」の寺院として当地に、瑞川寺の建立ありと見るべきか。

一〇六二 慶平五年 前九年の役終る。安部氏滅ぶ（源頼義）

一〇八七 寛治二年

後三年の役終る、清原氏滅ぶ。

一一七〇 嘉応二年

藤原秀衡鎮守府將軍となる。

一一八九 文治五年

源義経殺さる。源頼朝平泉藤原氏を滅ぼす。日本の政治的統一なる。

一一九二 建久二年

源頼朝、征夷大將軍に任ぜられ、鎌倉に

幕府を開く。

一一〇〇 正治二年

一月三日日本曹洞宗祖道元禪師生る

父 久我内大臣通親

母 松殿関白基房女

一一二三 建保元年

道元禪師、天台座主公円に剃髪

一一二四 建保二年

道元禪師、栄西の室に入って初めて臨済の宗風を聞く。

瑞川寺 年表

- 一一三二 承久三年 承久の乱、後鳥羽上皇はじめ三上皇、配流、一天皇廢位。
- 一一三三 貞応元年 道元禪師、入宋。
- 一一三五 嘉禄元年 道元禪師、如浄禪師に参ず。
- 一一三七 安貞元年 道元禪師、如浄禪師より嗣書を相承し帰朝す。
- 一一四四 寛元二年 道元禪師、越前大仏寺を建つ。
- 一一四六 寛元四年 道元禪師、大仏寺を永平寺と改称す。
- 一一五三 建長五年 八月二十五日、道元禪師示寂、五十四歳。
- 一一六八 文永五年 (一一六四 文永元年説あり) 十月八日、曹洞宗太祖瑩山禪師生誕
父 瓜生氏、越前武生の豪族
母 懐観大姉
- 一二七四 文永十一年 文永の役、蒙古軍对馬壱岐に来襲し九州に上陸暴風雨起り退く。
- 一二八〇 弘安三年 瑩山禪師、永平寺二世孤雲懐井禪師について剃髪す
八月二十四日、懐井禪師示寂、八十三歳
- 一二八一 弘安四年 弘安の役、元軍高麗軍と壱岐对馬、博多に来襲。大風雨で元軍敗退。
- 一二八二 弘安六年 永平寺三世徹通義介禪師、加賀大乘寺に住す。
- 一二九五 永仁三年 瑩山禪師、大乘寺徹通禪師に入室嗣法す
- 一一三五 正中二年 太祖瑩山禪師寂す。
能登五老峰永光寺、大乘寺総持寺の開山なり。
- 一一三七 嘉暦二年 夢窓疎石、鎌倉に瑞泉寺を創建す。
- 一一三三 元弘三年 後醍醐天皇、北条高時を滅ぼし、鎌倉幕府滅ぶ。
- 一一三八 延元三年 足利尊氏征夷大將軍となる。
- 一一三九 延元四年 後醍醐天皇没す。
- 一一四五 貞和六年 光厳院、幕府の請により国毎に建てる寺を安国寺、塔を利生塔と名付ける(古川市柏崎にもあり)
- 一一四九 正中四年 足利高経の弟伊予守家兼奥羽両国の探題

- 一三六六 正平二十一年 十月二十日総持寺二世峨山禅師寂す。
に補せられ大崎氏を称す。
- 一三七一 建徳二年 能登総持寺五院普蔵院開基
- 一四六〇 寛正元年 太源宗真寂す（古川瑞川寺の祖系）
越後村上耕雲寺開山
- 一四八二 文明十四年 梅山聞本寂す（古川瑞川寺の祖系）
七月五日輪王寺開山、大安梵守寂す（古川瑞川寺の祖系）
- 一四九九 明慶八年 三月十九日、統禅寺開山極堂宗三寂す
（古川瑞川寺の祖系）
- 一五一一 永正十年 三月、松音寺開山の全間乍寂す（古川瑞川寺の祖系）
- 一五三六 天文五年 六月二十一日、大崎天文の役起る。大崎義直、伊達植宗古川城を攻む。古川刑部持慧（刑部少輔持熙）一族滅ぶ。
（天台系）瑞川寺兵火のため滅亡。
- 一五五五 弘治元年 鈴木和泉守三河国に生る（鈴木家系図）
正月十九日、大崎義隆、古川刑部の遺子、古川九郎を古川城主とす。古川禅正忠隆、その弟青塚十郎を青塚城主とす。青塚撰津守隆持（青塚左右工門忠春）
八月三日伊達政宗米沢に生れ、父十六代輝宗山形城主、母は最上義守娘義姫
この頃、松雲叟瑞川寺廃境に寺務をとる。
- 一五七三 天正元年 足利幕府滅亡。
- 一五八一 天正九年 このとし三月十五日、松音六世松庵堅貞、瑞川寺法輪院に入る（寺院本末帳）その弟子花庵大春（瑞川寺二世）もまた塚ノ目に養性寺を建つ（封内風土記安永風土記）
この人、青塚氏の族か。
このころ当地は大崎家十五代左衛門督義隆の時代にして兵乱やまず、古川城主は古川弾正忠隆なり。しかして一説に鈴木三四郎（後の和泉守）塚ノ目に住せしという恐らくは青塚左衛門吉春の食客か。

- 一五八二 天正 十年 六月二日織田信長、本能寺に死す。
- 一五八三 天正十一年春 古川七郎に攻められ、青塚十郎戦死とい
う。
- 二月六日、政宗父と共に伊具郡金山、丸
森両城を攻む。この頃、松音寺は丸森に
あり。
- 一五八五 天正 十三年 政宗父輝宗二本松城主畠山義継に捕らえ
られて死す。
- 一五八七 天正 十五年 三月、大崎左衛門督義隆、伊達氏と戦い
死し、家臣その幼児義興を擁す。(一説)
(古川図書館蔵)
- 一五八八 天正 十六年 政宗正月十七日大崎氏に兵を出し、二月
二日大敗す軍奉行小山田筑前頼定鳴瀬川
畔に戦死す。
- 一五九〇 天正 十八年 北条氏直、豊臣秀吉に降る。八月一日徳
川家康江戸城に入る。秀吉遅参の罪にて
葛西大崎両氏の国を除き木村吉清(登米
城)、清久(古川城)父子に賜う。この
ころ鈴木七右衛門(和泉守)政宗弟小次
郎を斬るといふ。(徳富日本史)
- 一五九一 天正 十九年 大崎地方に一揆起こる。
二月九日秀吉、木村父子収封政宗に賜わ
る。二月二十六日、瑞川寺開山松庵堅貞
寂す。瑞川寺、養性寺兵火のため焼亡。
七月三日、佐沼城陥り一揆平ぐ。九月二
十三日、政宗米沢城より岩出山城に移る。
伊達氏の諸士諸山ともに移る。
これより慶長八年まで十二年間の伊達氏
の居城となる。
このころより、鈴木和泉守(七右衛門)
古川城主となる。
- 一五九二 文禄 元年 正月五日、政宗征韓の役に出征す。
- 文禄 年中 貞山公凱旋の後、紀州熊野より烏堂を勧
請す。
- 一五九八 慶長 三年 八月十六日、秀吉死す(年六十三)

- 一六〇九 慶長 十四年 三月二十六日、松島瑞巖寺立つ。
- 一六一四 慶長 十九年 政宗、大阪表に出陣、元信に留守を監せしめ軍備を脩めらしむ。政宗の庶長子秀宗宇和島十万石に封ぜらる。
- 一六一五 元和 元年 大阪落城、豊臣氏滅ぶ。
- 一六一六 元和 二年 四月十七日家康没す。(七十五歳)
その年元信飄然として去り行方知れずとなつたという(鈴木和泉守)
- 一六二〇 元和 五年 六月二日、和泉守元信没す(六十六歳)
瑞川寺に葬る。法号は当寺開基
- 一六三二 寛永 九年 前泉州太守瑞川寺殿嶺室松公大居士
十月四日瑞川寺二世花庵大春寂す(塚目養性寺開山)この人、事実上の両寺の建設者なり、和泉守を助けて功あり。
- 一六三六 寛永 十三年 五月二十四日、藩祖貞山公政宗、江戸に没す。(七十七歳)
法号は瑞巖寺殿貞山利公大居士
- 一六三九 寛永 十六年 伊達忠宗の第三子宗良をして鈴木元信の子の嗣となす。
- 一六四〇 寛永 十七年 七月七日元信の子鈴木七右衛門内室没し瑞川寺に葬る。
法号は円照院殿光庵妙月大姉
- 一六四一 寛永 十八年 六月二十八日、元信の子鈴木七右衛門重
- 一六〇二 慶長 七年 元信瑞川寺を再興す(一関市瑞川寺記録)
- 一六〇三 慶長 八年 政宗、岩出山城より仙台城に移る。
- 一六〇四 慶長 九年 古川の町割なる
(奉行佐々木大学、紺野因幡)
- 一六〇六 慶長 十一年 政宗長女天鱗夫人家康の七男、松平忠輝に嫁す。これを越後に護送する(瑞川寺記)。このとし、三月三日政宗常陸国に一万名を加増さる。養性寺再興。
- 志田郡北方御書上記によると(佐々木忠雄氏)
- 一六 慶長 五年 関ヶ原の戦い
政宗、上杉氏の白石城を攻む。大崎氏城中にあり和泉守元信大将となり功を奏す。

信子無くして没す。

法号は真如院殿久室長公大居士

一六四五 正保 二年 鈴木宗良桃生郡深谷に移る。瑞川寺も共に移る。当寺五世一庵林隻同行を拒絶し独り古川に止まる。

一六五一 慶安 四年 正月二十八日、和泉守内室没し瑞川寺に葬る。

法号は見得院殿即心自性大姉

一六五三 承応 二年 宗良田村家を再興す。これ政宗の夫人陽徳院が田村家の出であるので実家の再興

を強く望まれたので、義山公の応ずるところとなったという。

茲に於て鈴木家一時宗絶す。

一六五四 承応 三年 宗良、栗原郡三迫村岩ヶ崎に移封瑞川寺も共に移る。

一六五八 万治 元年 義山公忠宗卒す。

法号は大慈院殿義山崇公大居士

一六六二 寛文 二年 宗良、名取郡岩沼村に移封三万石、瑞川寺も共に移る。七月十一日、五世一庵和尚古川瑞川寺にて寂す。

一六七六 延宝 四年 佐々木掃部助等有志、その縁者の供養塔を建つ。

一六七七 延宝 五年 三月十九日は養性寺三世能巖大芸（春芸）寂す。

一六七八 延宝 六年 このとし輪王寺古法万英は古川市瑞川寺の大梵鐘銘を撰す住持は祖印雲悦とす。ときに古川郷検断職日野清右衛門発願して一鳥鐘を鑄て瑞川寺の朝夕に備えんとした。よって当郷五箇町人（すなわち、南町、三日町、七日町、十日町、北町）と隣邑新堀、中里、宮袋三箇村農の男女同志、跳躍歡呼して檀施の功をなす。作者は藩工早井弥兵衛定次。

三月二十六日、宗良没して江戸東禅寺（岩沼市竹駒寺にも墓がありという）に

- 葬る。この年、中里村一円の邑圭角懸氏は当山にその家歴代の宝域をつくる。六月二十七日検断日野清右衛門没す。法号は明徹宗悟禪定門
- 一六八〇 延宝 八年
宗良の嗣子田村建顯磐井郡一関に移封。三万石。瑞川寺も共に移る。鈴木家四代重喬開基となり殿宗を建立す（明治元年焼失）
- 一六八二 天和 二年
- 一六八六 貞亨 三年
壬三月二十三日輪王寺古法万英、瑞川寺十世裕叔臨光のために瑞川寺記を又同年中秋、瑞川寺観音堂記二巻を撰す。このとし、栗村長兵衛良成、観音霊像を寺中に祀る。
- 一六八九 元禄 三年
重喬をして鈴木家の家名を嗣がしめ歴代七右衛門と名のらせ家門として家老職の上座とする。
- 一七〇一 元禄 十四年
観音堂開基、栗村長兵衛良成没す。法号は就窓良成信士。
- 一七一一 正徳 元年
十一月吉辰 願主、願誉本正、願誉求心・念誉正人・覚誉浄心・方誉西求・宗源等三百十人の施与をうけて、兵火で見るも無残な寺中の阿弥陀鑄像を中奥玉村の鑄師中堀権三郎に依頼して改鑄した。（十一世月空龍覚代）
- このとき阿弥陀院、九品寺、天王寺、中興寺、信戒・祐恵・日山・満鏡、古川寺、大泉院、竜性院、天性寺十八世梅梁等の諸寺。
- 栗村氏、平渡氏、坂元氏、後藤氏、岩淵氏、菅野氏、曾根氏、富岡氏、雨貝氏、本庄氏父子、秋山氏、笠松氏、三浦氏、千葉氏、南館氏、青戸氏の諸士。
三日町、七日町、十日町、南町、飯川村、中新田町、吉岡町の諸人。

瑞川寺 年表

- 古川三日町念仏講、古川南町念仏講、古川南町三日町念仏講、南町新町三日町女中念仏講、南町三日町女中念仏講、上奥玉村治工大田長左工門等々、これをたすく。後人、この阿弥陀鑄像を地藏銅像と称す（大日如来碑銘文）。
- 一七二七 享保二年 町史稲葉村町分の高を書し次いで、瑞川寺のことを瑞河寺と書す。
恵心僧都の本尊釈迦如来四尺八寸と誌す。また、聖徳太子像ありと誌す。
- 一七四五 延享二年 五月三日、三島屋市三郎、妻女外七霊のため釈迦如来像と迦葉阿難像と共に寄進す（山門）。
- 一七七〇 明和七年 三月十七日、瑞川寺烏有に帰し、伝来の仏像什物すべて焼く。十七世代。
- 一七七二 明和八年 稲葉村新堀の御百姓、佐藤某その居宅を寄進し庫裡建つ。
- 一七七五 安永四年 仙台藩庁は領内に風土記を書き出さしむ瑞川寺仏国道存、開山より安永四年に至るまでのことを書き出す。
七月、養性寺は八世秀仙、書き出す。
- 一七七七 安永六年 この頃、現在の本堂再建なる。
十一月三十日小林屋平六没す（八十七歳）
法号は方水斎随心自円上座
瑞川寺再建の功労者「元の平六」の俚諺をのこす。
- 一七八八 天明八年 当地飢饉。
- 一七九四 寛政六年 八月九日、七日町佐々木与市、本堂の須弥壇を寄進す。
- 一八〇六 文化三年 六月五日、佐々木与市死す。（八十四歳）
法号は長生庵不老僊顔居士
- 一八一〇 文化八年 五月八日、当寺内興福庵、中興竜導上座没す。
- 一八一九 文政二年 和泉守元信の墓碑銘なる。
銘中に瑞川を瑞泉と記す。

瑞川寺 年表

- 一八三二 文政 五年 八月十五日、当寺二十三世能忍寂點、能登洞川庵に輪住す。
- 一八二七 文政 十年 十月十九日、寺内興福庵主、実相寿貞比丘尼寂す。越後の産、三十七歳。
- 一八三三 天保 元年 五月、当寺二十四世洞岩要源は仙台光寿院に転住す。
七月七日、佐々木永助老母園女没す。
二十五世嵩山鎮央は後に寺禄開創瑞盛院慈母妙円大姉と法諡す。
- 一八三一 天保 二年 二十五世嵩山鎮央は永平高祖の尊像と月舟宗胡の祈祷額を当寺に納む、また開基公の位牌を彫刻し、廟所を修めて瑞垣をつくる一ノ関家中鈴木七右衛門（顕元）は開基公碑を建つ。
前後世話人は紺野道謙なり。
- 一八三一 天保 三年 七日町佐々木永助は寺中に杉三千本植う
- 一八三三 天保 四年 七日町佐々木永助は天保元年より当年迄寺中に敷石をしく。また、寺中悪路に砂石三千駄以上しく及び童酒碑をたて且つ常夜灯明科、田地壹反三十刈永代寄附。但し大江向に而、当住鎮央は七日町佐々木市蔵と秋葉権現を再興し厨司を修む、また新田権右衛門と達摩大権像を寄進す
奥州大飢饉。仙台領特に甚し。
- 一八三六 天保 七年 十一月八日、二十五世鎮央和尚寂す。
- 一八三七 天保 八年 八月、瑞川寺鎮央よりの本寺松音寺に知行寺昇格出願のことを藩庁はこれを聴許す。
- 一八四二 天保 十三年 三月三日檀頭佐々木永助没す（六十六歳）
法号は天祥院曇華良瑞居士
- 一八五三 嘉永 六年 戊辰の役起り、九月仙台藩降伏
- 一八六八 明治 元年 廃藩置県
- 一八七一 明治 四年 五月二十五日、木村隆禅、柳津、明耕院より古川瑞川寺に入る。
- 一八七二 明治 五年 稲葉小学校当寺に新設され、木村隆禅その校長となる。次いで大教院権少講義を
- 一八七三 明治 六年

- 一八七八 明治 十一年 五月、永平寺貫主久我環溪禅師を拝請して大授戒会を啓建す。
 一八八一 明治 十四年 九月二十六日、総代三浦宗三郎没す。法号は義光院仁翁道栄居士、隆禅和尚安下所。
 一八八四 明治 十七年 墓地埋葬等に関する法律制定され、従来
 の独立落地使用禁止となる。
 一八八八 明治二十一年 木村隆禅隠退し、孫大場大亀嗣ぐ、この
 とし大柿外三ヶ村戸長役場より古川町成
 立す。
 一八九四 明治二十七年 日清戦争起る。
 一九〇三 明治三十六年 二月二十四日、木村隆禅寂す。
 一九〇四 明治三十七年 世寿八十三歳。よつて本寺松音寺住職木
 村文明和尚は中興免牘を贈る。
 一九〇八 明治四十一年 当寺檀中児玉儀左工門等、瑞川寺菩提門
 頭の阿弥陀鑄像に石造の台座を寄進す。
 日露戦争起る。
 一九〇八 明治四十一年 九月五日脇檀頭米城甚之助氏没す（七十
 三歳）
 法号は仁徳院至誠興運居士。この人先考
 の位牌を作らず阿弥陀像を以つてし当寺
 に祀る。（法号はその裏面に刻す）
 一九二二 明治四十五年 一月十五日、松木安友氏没す（六十一歳）
 法号は徳聚院義心明達居士
 一九二四 大正 三年 第一次世界大戦起る。
 一九二七 大正 六年 陸羽東線開通し、その物故者の供養会に
 永平寺貫首日置黙仙禅師を拝請して、一
 日の因縁会を設く、この年、石造露座の
 十六羅漢像なる（作者青森の人平沢光石）
 五月二十九日、木村大亀寂す。五十二歳
 よつて木村智秀、市内李塚富光寺より入
 る。

- 一九二二 大正 十年 六月二日、鈴木和泉守元信の墓碑銘復旧
なり除幕式を行う。これ教育勅語発布三
十周年記念事業として古川中学校長小松
原亮太郎氏の首唱による。このとし古川
仏教青年会結成す。
- 一九二三 大正 十二年 三月瑞川寺常恒会地昇格、古川仏教青年
会は記念事業として大授戒会を計画、こ
のとし六月大本山総持寺貫首新井石禅
師を拝請して尸羅会を啓建す。
- 一九二五 大正 十四年 この頃、当住木村智秀は墓地整理と伽藍
整備を発願。ます当寺開山堂に着工す。
満州事変起る。
- 一九三一 昭和 六年 八月十二日、檀頭佐々木庄五郎氏没す。
(七十八歳)
法号は当寺常恒会開基瑞興院殿天心道佑
大居士。
- 一九三六 昭和 十一年 十二月三十日、檀頭佐々木四郎氏没す。
(四十歳) 古川町町長現職。
- 一九三九 昭和 十四年 法号は瑞竜院殿天雄英機大居士。
第二次世界大戦起る。
- 一九四一 昭和 十六年 太平洋戦争起る。
- 一九四五 昭和 二十年 八月十五日、太平洋戦争終る。
- 一九五一 昭和 二十六年 宗教法人瑞川寺設立、境内地は再び寺有
となる。政府はこれに先立ち市町村有の
墓地払い下げを全国に通達す。このとし古
川町周辺の各村と合併して古川市となる。
- 一九五二 昭和 二十七年 瑞川寺墓地区画整理始まる。
- 一九五六 昭和 三十一年 瑞川寺護持会なる。
- 一九六六 昭和 四十一年 八月七日、瑞川寺庫裡建設委員会発足、
責任役員米城正三郎氏を委員長同早坂清
吉氏を会計兼副委員長、檀中佐々木佐太
郎、保科良治両氏を同副委員長とす。
- 一九六七 昭和 四十二年 十一月、瑞川寺庫裡会館新築なる。
一月十八日、三十二世木村智秀寂す。七
十八歳。この年、三月本堂山門改修なる。

四月二日、大本山永平寺副貫首佐藤泰舜
禅師によって本葬を行う。

瑞川寺仏教婦人会なる。五月八日。

一九六八 昭和四十三年
瑞川寺梅花講（詠讃歌）なる。四月二十
八日。

台町鉄砲屋佐々木佐太郎氏は先祖佐々木
大学はじめ佐々木家先祖累代諸精霊の法
名碑をその墓域に建つ。

一九六九 昭和四十四年
六月二日、和泉守元信三百五十回忌供養
会を行う。同供養会奉讃会の寄進により
て宝鏡印塔壱基、瑞川寺仏教婦人会によ
つて石灯籠一对を墓所に建立す。

一九七二 昭和四十七年
五月二十五日、三十世南崖和尚木村隆禅
明治五年、当寺入寺満百年なるをもつて
六月八日、大本山永平寺副貫首山田霊林
禅師によって記念法会を行う。特に釈南
崖祖翁詩偈遺集を大法界閣書店発刊にて
真前に備う。

一九七三 昭和四十八年
一月十五日、当寺は檀信徒大会を招集し
その決によって六月十二日より十六日ま
で大本山永平寺貫首佐藤泰舜大禅師を拝
請して大授戒会を啓建す。これに先立ち
小庫裡、戒師寮を新築し開山堂を増築、
坐禅堂維那寮、知殿寮その他を修む。こ
のとし、一月十六日瑞川寺小庫裡建設委
員会発足、檀中黒江要四郎氏を委員長、
同保科良治、赤松孫雄両氏を副委員長、
同大場忠男氏を会計とす。

一九七四 昭和四十九年
八月三十一日、大本山永平寺監院宮崎文
輝老師を拝請して、大施餓鬼会を行う。
老師は昭和四十年庫裡建設委員会発足に
あたつて当寺の恩人たり。このとし十月
二十六日、責任役員早坂清吉氏没す。七
十五歳。

法号は瑞本院藍譽道光大居士

- 一九七六 昭和五十一年 嗣子虎五郎氏本堂内に幢幡一对を寄進す。十二月、十日町吉野たけよ氏、本尊脇仏普賢菩薩像を寄進す。
- 一九七七 昭和五十二年 横町佐々木一郎氏は坐禅堂内に僧形の文殊菩薩像を寄進す。これより先、七日町佐々木みよ氏、文珠菩薩像を寄進す。
- 一九七八 昭和五十三年 瑞川寺桐堂殿建設委員会なる。
米 城 正三郎(会長)
佐々木 一郎(副会長)
早 坂 虎五郎()
佐 藤 武 雄()
保 科 良 治()
設計 関 裕 吾
施工 株式会社 金原土建
- このとし、駅前高橋福蔵夫婦、本堂内に幢幡一对を寄進す。
- 一九七八 昭和五十三年 このとし、諏訪町大場悦男氏は烏須沙摩明王の像を、また上古川中條仲治氏は伐多婆羅尊者の像を当寺に寄進す。
- このとし、小牛田町小野文子氏、上古川小野一太郎氏、南町斎藤猛雄氏、仙台市斎藤伸次氏は瑞川寺本堂屋根の四隅に各々、風鐸を寄進す。
- 一九七九 昭和五十四年 瑞川寺祠堂殿新築す。よつて六月十八日先住十三回忌法要をかねて大本山永平寺貫首秦慧玉大禅師を拝請し、慶弔大法会を行う。この年八月、小牛田町佐々木真治、豊父子法橋河原墓地内に観音像を寄進す。これより先、宮袋我妻みひ女鳥原墓地内に地藏尊を寄進す。
- 一九八〇 昭和五十五年 八月三十日、稲葉金五輪瑞川寺墓地移転す、古川第三小学校新設のため。このとき担中の有志等、新墓苑に石造の観音像と地藏像を安置す。また所属の諸家、結集して堂中の荘厳を完成す。
- このとしの六月二日、鈴木和泉守墓参会

に於て、古川郷土研究会長三上健児氏は
台町鉄砲屋佐々木仁一氏瑩域の法名碑の
銘文に着目す。曰く、

金性寺院郡開大忠居士 寛永十三年四

月七日 佐々木大学 六十一

道詣禅定門佛景菩提也 延宝五年九月

二十日 佐々木久兵工 五十七

金性寺の院とは瑞川寺法輪院のことか。

一九八四 昭和五十九年
四月十五日、大崎タイムス連載の「豊饒
平野」戦国時代の大崎一族を副題にて刊
行さる。著者は同社の記者、伊藤卓二氏
なり。

一九八五 昭和 六十年
六月二十一日、現住秀憲和尚発願して古
川氏一族五百余霊の四百五十回忌供養法
会を厳修す。当寺護持会と古川市志田郡
仏教会これを後援す。また大本山永平寺
に於て御親香大施餓鬼会を修む。

十一月、仙台市、角懸幸子氏祖先の供養
をす。この家祇園社祭典の先陣後陣の初
めをなすという。

一九八六 昭和六十一年
一月二十七日、午前二時出火、方丈、庫
裡、面蔵全焼、会館半焼、法衣、衣服、
什器、備品、書籍、記録、過去帳等烏有
に帰す。

二月十四日、小委員会を結成して再建を
図る。氏名左に、

米城正三郎、佐々木一郎、早坂虎五郎、
保科良治、永沢喜一、門脇清内、大友為
三郎、高橋兵輔、佐藤武男、千葉仁、青
木貞雄、紺野猛、庄司米治の十三氏なり。
会館の修復は設計士関裕吾氏が参画指揮
し六月完成。ついでこの小委員会を以て
大庫院建設委員会とし、総代米城正三郎
氏が建設委員長となる。設計は関裕吾氏
で(株)金原土建が着工す。

一九八七 昭和六十二年

一月十四日、未明、責任役員、米城正三郎氏急逝す。七十四歳。

法号は瑞光院正山舜龍大居士

総代佐々木一郎氏が建設委員長となる。

三月、大庫院新築成る。

六月十五日、大本山永平寺副貫首、宮崎奕保禅師を拝請して落慶大法要を厳修すこのとき、山門仁王像を開眼す。

一九八八 昭和六十三年

二月二十五日、瑞川寺総代会に於て明後年、昭和六十五年二月二十六日、当寺開山松庵堅貞大和尚四百回忌の由を説明すそのとき、明年一月十八日、二十三回忌正当の先住智秀和尚の年回を併修したき旨を説く。兼ねて本堂、開山堂、山門の屋根銅板葺換の件を諮る。

全年三月十日、瑞川寺護持会役員会、総会に於て瑞川寺本堂、山門、開山堂改修検討委員会を設置する件が可決された。
全年六月九日、瑞川寺本堂及び山門等改修委員会発足す。

全年十月十六日、当寺住職、岩手県一関市瑞川寺の開山忌先住忌諸堂落慶結制法要に拝請をうく。前晩の開山忌先住忌速夜導師と当日の西堂職をつとむ。これまことに正保二年（一六四五）、古川邑主鈴木氏、のちの一関藩主田村氏の国替以來、実に三四三年目で古川、一関の両端川寺の公的交流がなされたのである。まさに快事というべし。

一九八九 平成元年

全年十一月二十一日、護持会臨時総会において本堂等改修工事の件が承認された。
一月十八日、当寺三十二世、常恒会中興天巖智秀大和尚二十三回忌正当法要を内献す。導師玉造郡鳴子町祥雲寺住職鮎田竜全老師外法類近隣寺院にて行つ。

一九九〇 平成 二年 四月一日、逮夜導師、一関瑞川寺住職齋

藤信一老師。

全年四月二日、開山大和尚四百回忌法要。

焼香師本寺、仙台市新寺小路松音寺住職、

金山道雄老師。

先住二十三回忌、諸堂改修落慶並びに檀

信徒薦亡大施食会厳修

焼香師、大本山永平寺貫首 丹羽廉芳大

禅師。